

管理論文

2025

見開き完結！

警察官の昇任試験はもちろん、

警察職員（行政職等）の昇任試験にも使える！

問題と箇条書き答案例

- 箇条書きだから覚えやすい！
- 簡潔明瞭だから、答案構成が掴みやすい！

重要なキーワード

- 太字になっているから確認しやすい！
- 覚えて書けば加点につながる！

巡査部長

06 セクハラの実然防止対策

問題

セクシュアル・ハラスメントの根絶は、良好な職場環境を確保する上で不可欠なことである。
そこで、巡査部長として、セクシュアル・ハラスメントを未然に防止するための具体的方策について述べなさい。

見開き完結 \ これだけ合格 / 箇条書き答案例

1 はじめに
セクシュアル・ハラスメント（以下「セクハラ」という。）は、職場環境を著しく害する行為であり、警察組織においても絶対に許されるものではない。巡査部長として、職場の秩序と良好な環境を守るために、セクハラ事案を未然に防止する具体的方策を推進する必要がある。

2 セクハラの実然と影響

(1) セクハラの実然

- セクハラとは、他者を不快にさせる職場内外での性的な言動を指す。
- その判断は受け手の主観に委ねられており、行為者が意図せずとも受け手が不快に感じればセクハラとなり得る。

(2) セクハラが及ぼす影響

ア 職場環境への影響
セクハラは職場の秩序を乱し、円滑な業務遂行を妨げるとともに、の心身の健康を損ね、ひいては職場全体の士気や連携を低下させる。

イ 国民からの信頼の失墜

- 警察組織でのセクハラ事案は、国民の警察への信頼を大きく損ねる要因となる。
- 女性警察官の増進の中で、セクハラ事案は施策そのものに悪影響を及ぼしかねない。

3 セクハラを未然に防止するための具体的方策

(1) 幹部としての意識改革

ア セクハラがもたらす影響の重大性の認識

巡査部長

セクハラ事案が個人の尊厳を傷つけ、被害者が辞職などの重大な結果を招くことを認識する。

○ 幹部自らがセクハラ事案の根絶を目指し、率先して防止策を講じる。

イ 部下への意識づけ

- セクハラを「許さない、許さない」という組織全体の意識を醸成するため、適切な指導・教養を実施する。
- セクハラ行為は厳正な処分の対象であることを周知し、行動を律する意識を併付させる。

(2) 良好な職場環境の確保

ア 良好な職場環境を醸成するとともに、問題発生時の対応体制を整える。

イ 良好な職場環境の確保

セクハラは業務遂行を妨げるとともに、職場全体の士気や連携を低下させる。また、国民の警察への信頼を大きく損ねる要因となる。国民からの信頼の失墜を防ぐため、国民の警察への信頼を大きく損ねる要因となる。

セクハラ事案は施策そのものに悪影響を及ぼしかねない。

4 おわりに

セクハラは職場環境を著しく損なう行為であり、当事者のみならず組織全体に悪影響を及ぼす。巡査部長として、良好な職場環境を確保し、部下が職務に専念できるよう、平素からの身上把握の徹底や問題兆候への早期対応に努めなければならない。

解答

○ 職員の能力を十分に発揮するためには、セクシュアル・ハラスメントのない良好な職場環境が不可欠である。そこで、以下の設問に答えなさい。

(1) セクシュアル・ハラスメントの実然について

(2) セクシュアル・ハラスメントが職場に与える悪影響について

(3) セクシュアル・ハラスメント防止のための具体的対策について

31

類題の掲載

- 箇条書き答案例を覚えれば、書けるようになる類題を掲載！

01

若手警察官の早期育成

背景

警察官の交番主任として勤務するあなたは、警察学校の新任若手警察官を指導することになった。そこで、若手警察官を早期育成するための具体的な方策について述べてください。

見聞き完結 / これで合格 / 筋書き答案例

1 はじめに

社会情勢の急変に伴って複雑化する治安課題に的確に対処するとともに、第一線の現場執行力を維持するためには、若手警察官を早期に育成することが重要である。交番主任として、新任警察官が警察官としての使命感を持ち、現場で即応できる力を身につけるため、適切な指導を実施しなければならぬ。

2 若手警察官を早期育成するための具体的な方策

(1) 信頼関係の構築

ア 積極的なコミュニケーション

自話から積極的に声掛けを行うとともに、業務以外の話題でも対話をし、若手警察官との信頼関係を構築する。

イ 規範的な行動の実践

交番主任としての責任を自覚し、業務においても私生活においても清潔整った姿勢を示し、若手警察官に信頼される存在となる。

(2) 実務能力の向上

ア 目標設定と確認

若手警察官に達成可能な目標を設定させ、その進捗状況を適宜確認し、必要に応じて助言を行う。

イ ロールプレイング形式の訓練

住民対応や職務質問などを想定したロールプレイング形式の訓練を積極的に実施し、現場対応力を養う。

(3) 職務倫理の醸成

ア 非違事案の事例活用

全国で発生した具体的な非違事案を題材にしたグループ討議を実施し、警察官として高い倫理観と規範意識を醸成する。

ア 丁寧な説明
 ○ 部下に対し、身上把握の重要性を丁寧に説明し、プライバシーの侵害と認識されないよう努める。
 ○ 非違事案が発生した際に失うものの大きさを具体的な事例を挙げで認識させる。
 イ 自然な情報収集

出題傾向と重要キーワード

- 各階級の昇任試験に出題される、警察職員の昇任試験にも出題されるなど、出題の傾向を掲載！
- 特に重要なキーワードを抽出！

実践的な訓練を通じて、資機材の使用方法を習熟させるとともに、現場では勤務員同士の連携が必要不可欠であることを身につけさせる。

(6) ワークライフバランスの確保
 ア 時間外勤務の抑制
 不要不急の時間外勤務を防止するため、業務の進め方を見直し、正規の勤務時間内で業務を完了させるよう指導を行う。
 イ 年次有給休暇の取得促進
 家庭環境等を考慮しつつ、若手警察官が休暇を取得できるよう配慮し、幹部職員も率先して取得する。

3 留意事項
 (1) 率先進給
 交番主任として常に若手警察官の規範となる行動を心掛ける。
 (2) 厳禁工夫
 若手警察官の特性に応じた指導方法を検討し、柔軟な対応を行う。
 (3) 定量化
 指導内容を記録し、必要に応じて上司や関係者と共有するなどして、組織的・継続的な指導を実施する。

4 おわりに
 若手警察官の早期育成は、警察力の維持に直結する重要な課題である。交番主任として、信頼関係を構築しつつ、適切な指導実践を通じて若手警察官が一人前の警察官に成長できるよう、全力で取り組む所存である。

重要キーワード

- 信頼関係 ●コミュニケーション ●職務倫理 ●誇りと使命感 ●リカバリー教育 ●ワークライフバランス ●率先進給 ●若手警察官の特性

非違事案の未然防止に努めていきたい。

非違事案防止に向けた身上把握・指導については、巡査部長のほか、警部補や警部の昇任試験においても出題されています。また、警察職員（行政職、技術職等）の昇任試験においても出題されています。

長 信頼に情報を収める。
 巡査部長 遺失したもの大目を見られた場合
 警部補 環境を整える。
 警部 解決を図る。
 警部 示すことで、関係者にのみ共
 警部 個人とその家族
 警部 事を行うことで、

4) スタンダードな答案の書き方

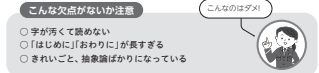
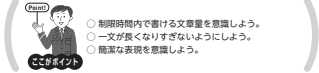
答案は、前論・本論・後論で構成しよう。

答案構成の例

- 1 はじめに
- 2 意義、重要性、必要性、問題の所在等
- 3 幹部の立場・役割・心構え等
- 4 具体的な方策
 - (1) ア
 - (2) イ
 - (3) ア
 - (4) イ
 - (5) ア
- 5 留意事項等
- 6 おわりに（決意表明等）

- はじめに
 導入となる部分。「最近の情勢・傾向」や「出題の背景」を書くことにより、後の論点をより明確にすることができます。
- 意義、重要性、必要性、問題の所在等
 本論へ発展する部分。論点の重要性・必要性や、問題の所在を示すことで、本論に焦点が定まり、説得力が増します。
- 幹部の立場・役割・心構え等
 各級幹部には、それぞれの立場・役割があり、特に管理論文では、各階級の立場で論述することが求められます。
- 具体的な方策
 設問の「問いかけ」に、具体的に答えていく部分であり、最も力を入れるべきところ。いかに論点に、重要な点を盛り込めるかが、「まとめる能力」が求められます。見出しを立てて、読みやすくする工夫も必要です。
- 留意事項等
 本論で盛り込めなかった事項等があれば、ここで補足します。制限字数・時間に配慮しながら書いていきましょう。
- おわりに（決意表明等）
 結びとなる部分。今後の取組姿勢や自分の決意といった、締めくくりの言葉を添えれば、答案がピシッと決まります。

※ 上は基本的な答案構成の例のため、本書では、上記と異なる構成となっているものもあります。



はじめての管理論文

- 初めて昇任試験の論文を受ける方、必読！
- 「管理論文とは何なのか」から「各階級の立場・役割」まで掲載！
- 警部補試験、警部試験を受ける方も基本の復習に最適！

本書の使い方	02
職務倫理の基本	06
はじめての管理論文	07

巡査部長

☆ 1位 01	若手警察官の早期育成方策	20
☆ 2位 02	巡査部長の立場と役割	22
☆ 3位 03	私行上の非違事案防止対策	24
☆ 4位 04	非違事案防止に向けた身上把握・指導	26
☆ 5位 05	年上の部下に対する指導教養	28
06	セクハラの未然防止対策	30
07	士気の高揚と厳正な規律	32
08	実績向上方策	34
09	受傷事故防止の徹底	36
10	SNS利用時における留意事項	38
11	適正な相談受理	40
12	情報流出・漏えい防止	42

警部補

☆ 1位 01	業務上における非違事案防止	46
☆ 2位 02	非違事案に係る前兆事案の把握	48
☆ 3位 03	ハラスメントの絶無	50
☆ 4位 04	警部補の立場と役割	52
☆ 5位 05	若手警察官の現場執行力の強化	54

06	効果的な身上把握・指導	56
07	職務倫理教養の徹底	58
08	実戦的総合訓練	60
09	リカバリー教養	62
10	メンタルヘルス対策	64
11	高い士気と厳正な規律を有する職場環境	66
12	警察官の採用募集活動	68

警部

☆ 1位	01	ワークライフバランスの推進	72
☆ 2位	02	働き方改革の推進	74
☆ 3位	03	人的リソースの有効活用に係る業務の合理化・効率化	76
☆ 4位	04	セクシュアル・ハラスメント等防止対策要綱	78
☆ 5位	05	パワー・ハラスメントの根絶	80
	06	警部としての資質と能力	82
	07	身上把握・指導の具体的方策	84
	08	非違事案の前兆を把握した際の対応	86
	09	良好な職場環境づくり	88
	10	当直時における適切な報道対応	90
	11	当直責任者としての任務と配意事項	92
	12	当面取り組むべき組織運営上の重点	94





職務倫理の基本

(警察職員の職務倫理及び服務に関する規則 2 条 2 項)

- 1 誇りと使命感を持って、
国家と国民に奉仕すること。
- 2 人権を尊重し、公正かつ親切に
職務を執行すること。
- 3 規律を厳正に保持し、
相互の連帯を強めること。
- 4 人格を磨き、能力を高め、
自己の充実に努めること。
- 5 清廉にして、
堅実な生活態度を保持すること。

はじめての管理論文

1 >>> 管理論文ってなに？

まずはじめに……

昇任試験は、落とすためのものではなく、「誰を昇任させるか」を判断するものです。

警察組織の期待

- 「将来の警察を担う幹部を昇任させたい」
- 「1人でも多く上位の階級に昇任してほしい」

論文試験は、基本4法、実務科目もありますが、管理論文とは、
警察組織の課題・目標について、
「幹部として何をすべきか」という切り口で
受験者の知識・考え方・意気込みを書かせるものです。

階級ごとに、求められる答案の内容・深度が異なります。
階級が上がるほど責任が増し、次のようなチカラが求められます。

- 自らを律し、学び続ける力
- 管理する力
- 人を動かす力
- 時代の変化に対応できる力
- 危機に対応できる力
- 先をよむ力



各階級の役割

(詳細はp17～p18参照)

巡查部長 実働の中核。現場の最前線で、自らが手本となって、部下に実戦的な指導・監督を行う。現場への指示を伝え、現場の要望を上司に伝えるパイプ役でもある。

警部補 プレイングマネージャー。各課(係)間の調整役。中間幹部として現場の責任者でもあり、実働的な面で部下を直接指導・監督もする。担当係レベルでの人事管理・業務管理上の責任も有する。

警部 警察署の課長。警察署長を補佐し、署の運営方針に基づき部下を動かして、課の目標を達成していく。部下の人事管理・業務管理上の要となるだけでなく、部外・対外的な連絡調整・交渉を行う点でも重要な階級である。

Point!



ここがポイント

ここに挙げたことが「今すぐできるから」合格するものではありません。

上を目指して努力することが大切であり、部下を指導・監督しつつ自らも学んで自己を高めることで、真に幹部として成長し、機能するのです。

幹部として求められること

- 将来を期待される知識・技能がある
- 人格・識見ともに優れている
- 現状に甘んじることなく勉強を続けていく
- 社会情勢の変化に対して的確に対応する
- 強靱な体力・精神力がある
- 強い責任感・使命感がある

上を目指すという熱意を込めて書きましょう。



管理論文 2025

巡查部長

01

若手警察官の早期育成方策

問題

警察署の交番主任として勤務するあなたは、警察学校の初任科を卒業した若手警察官を指導することとなった。そこで、若手警察官を早期育成するための具体的方策について述べなさい。

見開き完結 \ これで合格 / 箇条書き答案例

1 はじめに

社会情勢の変容に伴って複雑化する治安課題に的確に対処するとともに、第一線の現場執行力を維持するためには、若手警察官を早期に育成することが重要である。交番主任として、新任警察官が警察官としての使命感を持ち、現場で即応できる力を身につけるため、適切な指導を実施しなければならない。

2 若手警察官を早期育成するための具体的方策

(1) 信頼関係の構築

ア 積極的なコミュニケーション

日頃から積極的に声掛けを行うとともに、業務以外の話題でも対話を行い、若手警察官との信頼関係を構築する。

イ 模範的な行動の実践

交番主任としての責任を自覚し、業務においても私生活においても清廉堅実な姿勢を示し、若手警察官に信頼される存在となる。

(2) 実務能力の向上

ア 目標設定と確認

若手警察官に達成可能な目標を設定させ、その進捗状況^{しんしゆく}を適宜確認し、必要に応じて助言を行う。

イ ロールプレイング形式の訓練

住民対応や職務質問などを想定したロールプレイング形式の訓練を積極的に実施し、現場対応力を養う。

(3) 職務倫理^{じふつりんり}の醸成

ア 非違事案の事例活用

全国で発生した具体的な非違事案を題材にしたグループ討議を実施し、警察官としての高い倫理観と規範意識を醸成する。

イ 誇りと使命感の醸成

警察官が社会正義の実現に寄与する崇高な職務を担っていることを教養し、誇りと使命感を醸成する。

(4) リカバリー教養の推進

- 失敗を隠すことが重大な非違事案につながることを理解させ、ミスを迅速かつ正直に報告する重要性を教える。
- 過去の失敗事例を基に正しいリカバリー方法を指導し、失敗から学ぶ姿勢を身につけさせる。

(5) 受傷事故防止

実戦的な訓練を通じて、資機材の使用方法を習熟させるとともに、現場では勤務員同士の連携が必要不可欠であることを身につけさせる。

(6) ワークライフバランスの推進

ア 時間外勤務の抑制

不要不急の時間外勤務を防止するため、業務の進め方を見直し、正規の勤務時間内で業務を完結させるよう指導を行う。

イ 年次有給休暇の取得促進

家庭環境等を考慮しつつ、若手警察官が休暇を取得できるよう配慮し、幹部職員も率先して取得する。

3 配注意事項

(1) 率先垂範

交番主任として常に若手警察官の模範となる行動を心掛ける。

(2) 創意工夫

若手警察官の特性に応じた指導方法を検討し、柔軟な対応を行う。

(3) 記録化

指導内容を記録に残し、必要に応じて上司や関係者と共有するなどして、組織的・継続的な指導を実施する。

4 おわりに

若手警察官の早期育成は、警察力の維持に直結する重要な課題である。交番主任として、信頼関係を構築しつつ、適切な指導教養を通じて若手警察官が一人前の警察官に成長できるよう、全力で取り組む所存である。

A

重要キーワード

- 信頼関係 ●コミュニケーション ●職務倫理 ●誇りと使命感 ●リカバリー教養 ●ワークライフバランス ●率先垂範 ●若手警察官の特性

管理論文 2025

警部補

01

業務上における非違事案防止

問題

全国において、証拠品管理の不徹底による紛失、警察情報の漏えい、捜査書類の隠匿等の業務上における非違事案が依然として発生している。そこで、警察署の警部補として、業務上の非違事案を未然に防止するための具体的方策について述べなさい。

見開き完結 \ これで合格 / 箇条書き答案例

1 はじめに

全国において、証拠品管理の不徹底や警察情報の漏えい、捜査書類の隠匿等の業務上における非違事案が依然として発生している。警察署の警部補として、その責務を強く認識し、業務上における非違事案の未然防止に向けた具体的方策を講じていかなければならない。

2 業務上における非違事案防止の重要性

- (1) 国民からの信用の失墜
警察の公正性・信頼性が損なわれ、国民からの信用が失墜する。
- (2) 刑事司法への悪影響
捜査情報の漏えいや証拠品管理の不備は、裁判における証拠能力を失わせる場合がある。
- (3) 士気の低下
組織全体の士気が低下し、職員の業務遂行能力に悪影響を及ぼし得る。

3 業務上における非違事案発生時の主な要因

- (1) 知識や認識の不足
職員の業務における基本的な知識や認識が不足していることで、誤った処理をしてしまう。
- (2) 業務管理の不徹底
幹部による部下に対する指示・命令や業務の管理が形骸化している。
- (3) 職場環境の問題
業務量の増加や職場環境の閉塞感^{へいそくかん}が原因となり、職員のストレスが高まることで非違事案が発生しやすくなる。

4 業務上における非違事案を未然に防止するための具体的方策

(1) 指導教養等の徹底

- 証拠品管理、捜査書類作成及び情報管理における法令や内規についての理解を徹底するため、定期的な研修等を実施する。
- 過去の非違事案を教材として活用し、非違事案の発生原因や防止方策について全員で考える場を設ける。

(2) 業務管理の徹底

- 証拠品管理簿や捜査書類の記録を定期的に確認する。
- 捜査活動や各業務の進捗をこまめに把握し、部下からの定期的な報告を徹底させる。

(3) コミュニケーションの活性化

- 職場内のコミュニケーションを活性化させ、職員間の信頼関係を築くよう心掛ける。
- 部下が意見を言いやすく、風通しのよい職場環境を醸成する。

(4) ハイリスク事案の防止

- 警察情報のアクセス権限を限定し、情報漏えいを防止するための対策を導入する。
- 証拠品の紛失防止のため、証拠品管理の責任者を明確化し、複数人による管理体制を整備する。

(5) 隠蔽させない環境の構築

- リカバリー教養を実施し、業務上又は私行上の失敗に対する適切な対処法を理解させる。
- 業務の透明性を高め、組織内での適正な監視体制を整備する。

5 おわりに

業務上における非違事案は、幹部職員による適切な業務管理と指導監督によって未然に防止することができるものである。警部補として、業務上における非違事案を絶対に発生させないという強い信念を持ち、部下職員の意識改革と適切な職場環境の構築に努めなければならない。

類題

本問題のテーマは、警察官の昇任試験のほか、警察職員（行政職、技術職）の昇任試験にも出題されることがあります。

問題 警察署の係長として、警察職員が携わる業務において発生が想定される業務上の非違事案について事例を列挙するとともに、それらを未然に防止するための具体的方策について述べなさい。

管理論文 2025

警 部

01

ワークライフバランスの推進

問題

ワークライフバランスを実現するためには、業務の合理化・効率化、時間外勤務の縮減等が求められるが、警察署の課長として、ワークライフバランスの実現に向けた具体的方策について述べなさい。

見開き完結

\ これで合格 /

箇条書き答案例

1 はじめに

急速に変化する社会情勢に的確に対応し、住民の期待と信頼に応えていくためには、警察職員一人一人が生き生きと働き、その能力を最大限に発揮できるよう、ワークライフバランスの実現が強く求められている。

2 ワークライフバランスの実現に向けた具体的方策

(1) 全職員の意識改革

ア 幹部の意識改革

- 全ての職員の意識改革のためには、幹部職員自らがワークライフバランスを体現する。
- ワークライフバランスの推進に資する効率的な業務管理や良好な職場環境づくりに向けて率先して行動する。

イ 職員の意識改革

- 全ての職員が「ワークライフバランスは、特殊な職務である警察での実現は不可能」といった先入観を排除する。
- ワークライフバランスの重要性について、あらゆる機会を通じた教養等を実施し、全職員に周知する。

(2) 働き方改革の推進

ア 業務の合理化・効率化

- 課員の業務量及び進捗状況を把握し、特定の職員に業務が偏らないように業務の見直しや効率化を常に考え、適正な業務管理に努める。
- 業務の在り方や事務処理体制の見直しを図るなど、業務の合理化・効率化を推進する。

イ 時間外勤務等の縮減

- 安易に時間外勤務や休日勤務を行うことがないよう、職員の勤務制に

じた勤務指定の変更、振替や時差出勤等により、**時間外勤務の縮減**に努める。

- 効率的な業務と定時退庁の励行について職員に意識付けを行うとともに、幹部は、職員の定時退庁を抑制しないよう、自らが率先して定時退庁に努める。
- 各種会議、研修会等を通じて、職員の休暇の取得に対する意識改革を図り、**休暇を取得しやすい職場環境の整備とサポート体制の強化**に努める。

(3) 身上把握の徹底

- ワークライフバランスを実現するためには、職員が家庭生活への関わりを深めることが重要である。
- 幹部は、子育てや介護を担う職員の状況を把握し、各職員を支援するよう努めなければならない。

(4) 各種制度の周知徹底

出産・育児に係る各種休暇制度や時差出勤制度、子供の看護休暇制度及び各種助成制度の内容が職員に周知され正しく理解されるよう、**各種制度の周知を徹底**する。

(5) 女性職員の活躍促進に向けた環境づくり

子育て中の女性職員の活躍促進に対する理解を深めるよう周知徹底を図り、**女性職員が職場で活躍できる雰囲気と環境づくり**に努める。

(6) 仕事と家庭を両立できる職場環境の整備

- 育児、介護等により勤務制限を要する職員を含む全ての職員が、十分な能力を発揮できるよう、支援制度に関して周知する。
- 男女が共に家庭生活における責任を果たしながら働き続けることのできる職場環境を構築するために、**男性職員の家庭生活への参加を促進**する。

3 おわりに

ワークライフバランスは、**強靱な組織**を構築するために重要なものであることを認識し、警察署の課長として、実質的な「働き方改革」により業務の合理的で効率的な運営を図るなど、ワークライフバランスの実現に向けた取組を継続的に推進していかなければならない。

類題

問題 ワークライフバランスを実現することは、警察組織の人的基盤を強化するために必要なことであり、優秀な人材を確保するためにも非常に重要なことである。そこで、警察署に勤務する課長として、いかにしてワークライフバランスを実現していくか、あなたの考えを述べなさい。